

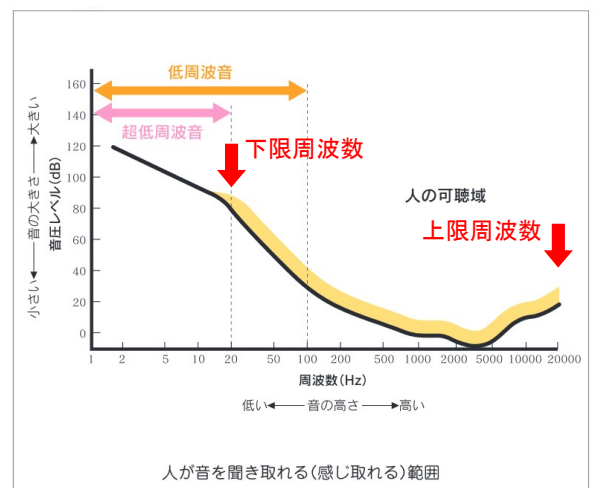
用語	可聴周波数帯域（かちょうしゅうはすうたいいき）	作成：2019.11.14
		改訂：
説明	人が知覚することのできる音の周波数範囲。健康な若い人では、およそ 20 Hz から 20000 Hz が可聴周波数帯域である。加齢に伴って高音側から聴力が低下するため、可聴周波数帯域は狭くなる。	

人は空気の圧力変動を聴覚器官である耳を通じて音として知覚するが、周波数が異なれば同じエネルギーの圧力変動であっても、人が感じる音の大きさは同じとはならない。人の聴力は 3000 Hz 付近で最も感度が良く、それ以下、それ以上の周波数は感度が低下する特性となっている。

人が音として認識できる周波数範囲を、可聴周波数帯域という。可聴周波数帯域から外れて感度が極端に低下する周波数を可聴周波数帯域の下限周波数、上限周波数としている。

健康な若い人の可聴周波数帯域は、20 Hz から 20000 Hz とされている。可聴周波数帯域には個人差があるとともに、年齢による変化も生じる。加齢に伴い、聴力の低下が特に高周波数側から生じることから、上限周波数が低下して可聴周波数帯域も狭くなる。

なお、可聴周波数帯域は、可聴周波数、可聴周波数域ともいう。また、耳には聞こえないが、可聴周波数帯域より低い音を超低周波音、可聴周波数帯域より高い音を超音波という。



2) 上の図は、横軸を音の高さ(周波数)に、縦軸を音の大きさ(音圧レベル)にとり、人が音を聞き取れる範囲を模式的に示したものです。黄色で示した領域の下側の線が、音を聞き取れる(感じ取れる)最小値になります。
出典：よくわかる低周波音(環境省水・大気環境局大気生活環境室)に加筆